

令和元年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 ドイツ文学科・助手

申請者氏名 三枝 桂子

研究課題		戦間期ドイツの芸術作品における機械と女性の身体表象研究—『メトロポリス』を中心に
報告の概要	研究目的 および 研究概要	フリッツ・ラング監督の映画作品『メトロポリス』(1927)と、脚本を担当したテア・フォン・ハウボウの小説版に登場する女性型機械人間の表象が、機械と身体の類似性について強く意識された当時の身体理解の文脈において、どのように位置づけられ得るかを明らかにする。彼らはそれぞれ、異なる素材と外見、身振りを機械人間に与えていた。急速に進む当時の機械技術の発展という背景からそれぞれの身体表象の美術史的位置づけを試みる。
	研究 の 結果	映画版における機械人間の女性の性的なフォルムを強調する着衣と裸体を曖昧にする皮膚の表現は、ヘルダーがギリシャ彫刻について指摘した、身体を覆い隠すことなく表現する手段としての濡れ衣の特徴と類似しており、古典的な彫刻の身体表象の系譜の中に位置づけられる。一方、小説版における機械人間の身体内部を晒すガラスの皮膚は、X線の発見や外科的医療の進歩という当時意識されはじめた身体内部へのまなざしが表現され、現代アートにも繋がる技術と芸術が融合した身体表象として位置づけられることが明らかになった。
	研究 の 考察・ 反省	機械人間という美術史において未だ位置づけが曖昧な表象を、ヘルダーの『彫塑論』を参照し、現代アートのコンセプトの側面から分析することで一つ答えを提示することができた。しかし、それぞれの機械人間のデザインのアイデアや影響、成立過程について、作者が残したメモや当時の記事などの一次資料を参照することも予定していたのだが、見つけることができなかった。先行研究においても作者の具体的な言葉について指摘されていないため、現時点では新しい一次資料を発見することは難しいという結論に至らざるを得なかったことが反省点である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	なし (2回の研究発表を予定していたが、2019年12月に開催されたドイツ文学科学術研究発表会は急性気管支炎のため欠席し、2020年3月に予定されていた、日本人形玩具学会、表象遊戯学研究会の研究発表会は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。)	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	辞典項目:「球体関節人形」(pp. 95f)、「シュタイプ」(p. 167)、『日本人形玩具大辞典』日本人形玩具学会編、東京堂出版、2019年6月30日。 成果論文は執筆中。	

※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。